

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点  
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」  
 2020年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2021年 5月 9日 提出

1. 研究課題名	
アート・リサーチセンター番付ポータルデータベースを活用した興行番付のグローバルアーカイブ構築研究 (英文課題名: Research on Construction of Global Archive of Playbill by Utilizing Art Research Center Banzuke Portal Database)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
〔日本語〕 倉橋 正恵(くらはし まさえ) 〔ローマ字〕 Kurahashi Masae	〔日本語〕 同志社女子大学・嘱託講師 〔英語〕 Doshisha Women's College of Liberal Arts Part-time Lecturer
3. 研究分担者 (合計: 3 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
〔日本語〕 金子貴昭(かねこ たかあき) 〔ローマ字〕 Kaneko Takaaki	〔日本語〕 立命館大学衣笠総合研究機構・准教授 〔英語〕
〔日本語〕 廣瀬千紗子(ひろせ ちさこ) 〔ローマ字〕 Hirose Chisako	〔日本語〕 同志社女子大学・名誉教授 〔英語〕
〔日本語〕 青山いずみ(あおやま いずみ) 〔ローマ字〕 Aoyama Izumi	〔日本語〕 立命館大学文学部研究科・研修生 〔英語〕
4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)	
<p>江戸時代の演劇や相撲、見世物などの興行で、宣伝のために作成されるポスターやチラシ、パンフレットなどを指して「番付」と呼ぶ。番付は宣伝効果を狙うために、興行が始まる前から大量に制作され、広く配布・販売された。これらは分野ごとに膨大な数が残存しているが、ほとんど整理されることがないままに残されているというのが現状である。番付は興行そのものを直接に記録した第一次資料であり、またその残存数の多さから、ビッグデータ型の文化史資料群としての価値を持つ。</p> <p>本研究では、日本各地、あるいは世界に散在する番付について、アート・リサーチセンターが浮世絵や古典籍で展開した方法と同様の手法を用いて、番付をデジタル撮影すると同時に番付に記載されている興行情報もデータベース化する。このことにより、これまでに存在しえなかった大規模な興行年表データベースの構築を目指すものである。</p>	

## 5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

本研究では、これまでに着手されながらも調査研究が途中で滞っていた公共機関及び個人が所蔵する番付コレクションについて、そのデジタル・アーカイブ化を進め、デジタル化によって得られたデジタルデータを元に番付に記載される情報を採取して ARC 番付ポータルデータベースへ入力し、番付ポータルデータベースを充実させると共に、研究基盤となるデジタル情報化・データベース化を実施することを主な目的としている。

2020 年度は新型コロナの影響により、第二回「ARC 番付ポータルデータベースを活用した興行番付のグローバルアーカイブ構築研究 歌舞伎興行と番付」研究会については開催することができなかった。その代わりとして、研究代表者が出版した研究論文集『江戸歌舞伎の情報文化史』(倉橋正恵著、汲古書院、2021 年 3 月刊)の、近世後期から幕末にかけての江戸歌舞伎興行の実態と芝居番付の関係性を考察した論考において、アート・リサーチセンター番付ポータルデータベースの有効性を示すと共に、本研究の研究成果を盛り込みながらの成果発信を行った。

また、ARC で購入された歌舞伎・浄瑠璃番付についても、各番付の上演年・座を考証した上で、その上演情報を ARC 番付ポータルデータベースへ反映させることができた。具体的には、2019 年度に本研究予算で購入した 19 世紀前半の京都・大坂を中心とする上方芝居の番付帖 2 点について、芝居番付を一枚ずつデジタル撮影の上、ARC 番付ポータルデータベースに組み入れて年代考証データを付与し、同データベースの情報の充実をはかることができた。

## 6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

## (1) 著書

- ・『歌舞伎評判記集成 第三期 第四巻』、共著、2021 年 2 月、和泉書院、役者評判記集成刊行会編(執筆  
者:黒石陽子・倉橋正恵・水田かや乃・野口隆・齊藤千恵・光延真哉・池山晃・佐藤かつら・田草川みずき・  
神楽岡幼子)、pp.51-63、pp.295-306、pp.468-469、475
- ・『江戸歌舞伎の情報文化史』、単著、2021 年 3 月、汲古書院、倉橋正恵、pp.1-634

## (2) 論文

## (3) 研究発表等

## (4) 主催したシンポジウム・研究会等

## (5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

- ・「歌舞伎名作案内 114 五大力恋緋」、『演劇界』2020 年 12 月号、倉橋正恵、演劇出版社、pp.96-97、  
2020 年 11 月

## (6) 受賞学術賞

## (7) 科学研究費助成事業

- ・「歌舞伎興行と近世期出版活動における連動性についての発展的研究」、基盤研究(C)、2017 年 4 月－  
2021 年 3 月、倉橋正恵(研究代表)
- ・『江戸歌舞伎の情報文化史』、研究成果公開促進費(学術出版)、2020 年 4 月－2021 年 3 月、倉橋正恵  
(研究代表)

## (8) 競争的資金等(科研費を除く)

## (9) その他